

交番磁界治療器エイトを用いた 回復期リハビリテーション病棟での治療効果



静清リハビリテーション病院
リハビリテーション部 理学療法士 リーダー
河瀬 智文 様



【背景】

回復期リハビリテーション病棟では、患者のADLやQOLを向上し、自宅復帰や社会復帰を目標にリハビリを実施している。ADLやQOLを低下させる要因の1つに痛みがある。痛みの原因は、患者ごと異なり、治療に難渋することが多い。今回、疼痛治療を目的とした交番磁界治療器「エイト」を使用し、患者の疼痛治療を経験したため報告する。

【方法・対象】

当院に入院した3症例について、通常の理学療法に加え、痛み治療を目的にエイトを使用し、治療効果を確認した。

【症例報告】

<症例1>

80歳代女性

左大腿骨顆上骨折で髄内釘を施行された症例

<症例2>

60歳代女性

主病名は軸椎歯突起骨折、発症2ヵ月前に帯状疱疹を発症し帯状疱疹後神経痛を罹患していた症例

<症例3>

70歳代男性

右被殻出血で左肩関節痛を罹患していた症例

【治療経過・結果】

3症例とも、30分/回×1~2回/日でパッドを装着した。どの症例についても、エイト使用による有害事象や副作用を認めなかった。

<症例1>

パッド4個を左膝関節の前方を覆うように装着し実施した。実施前、安静時の疼痛強度はNRS6~8と非常に強かったが、2週間の使用で、安静時痛はNRS 2~5まで改善した。しかし、荷重時痛は残存しており、歩行中の痛みの強度は使用期間では改善を認めなかった。

<症例2>

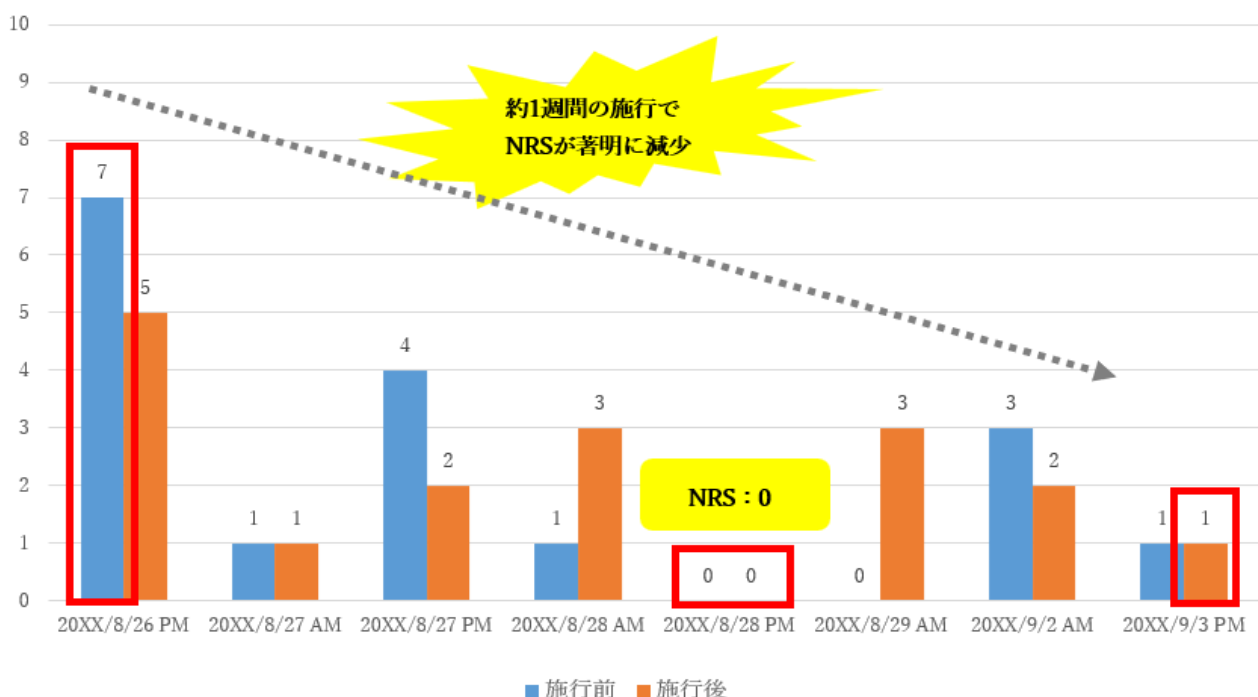
パッド4個を神経痛を訴える左腹部に直接装着し実施した。実施前、左腹部の痛みが強く、起居動作や座位保持が困難であった。使用開始3日目から疼痛が改善し、起居動作や座位保持が可能となった。2週間の使用で、帯状疱疹後神経痛の痛みは改善した。

<症例3>

パッド2個で左上腕骨近位部を挟み、残り2個のパッドを左上腕骨中間部に装着し実施した。実施前、NRSで7程度の痛みがあったが、およそ1週間の使用で、安静時痛はNRSで1、運動時痛はNRSで3と改善を認めた。(図1)

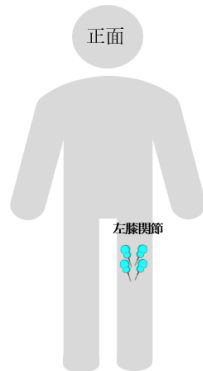
なお、20XX年8/28AM・20XX年8/29AMでは、エイト施行後にNRSが増強したように見えるが、これはリハビリの中で動作訓練を実施したことによる疼痛によるものであり、エイトの施行が原因ではないと判断した。

図1：(症例3)エイト施行によるNRSの変化

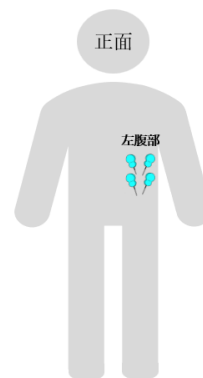


【パッドの固定方法】

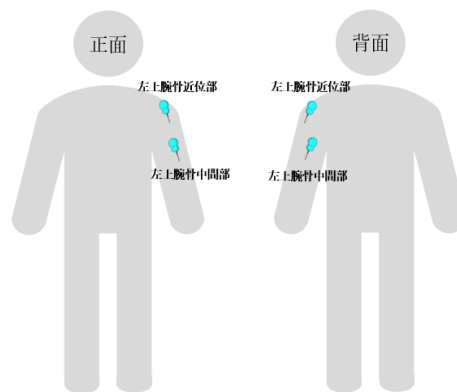
<症例1>左膝関節の前方を覆うようにパッドを4個装着



<症例2>神経痛を訴える左腹部にパッドを4個装着



<症例3>左上腕骨近位部を2個のパッドで挟み、残りを左上腕骨中間部に装着



【考察】

今回、回復期リハビリテーション病棟で痛み治療を目的に交番磁界治療器「エイト」を使用し、3症例の治療を経験した。

3症例とも、痛みは軽減し、回復期リハビリテーション病棟における痛み治療にエイトは有用であることが示唆された。

今後、さらに多くの症例の痛み治療を経験し、どのような症例に対して有効か、痛みの神経生理学に基づき検討していきたい。

薬事情報

販売名：エイト

承認番号：30400BZX00015000

一般的名称：交番磁界治療器

医療機器クラス分類：クラスII

(管理医療機器 特定保守管理医療機器)

株式会社P・マインド

〒861-5525

熊本県熊本市北区徳王2-8-6

TEL 050-3160-8350

MAIL contact@p-mind.co.jp